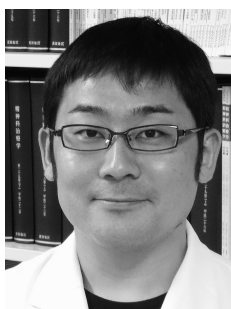


## がん研究奨励賞 (林原・山田賞)



藤原 雅樹

## 略 歴

2006年3月	岡山大学医学部医学科 卒業
2006年4月	岩国医療センターに勤務（初期・後期研修医）
2010年7月	医員 岡山大学病院 精神科神経科
2013年4月	岡山県精神科医療センターに勤務
2014年4月	医員 岡山大学病院 精神科神経科
同上	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程 入学
2018年3月	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程 修了

## 研究論文内容要旨

近年、精神障害者の健康格差が世界的な課題となっており、主要な死因の1つであるがんにおいても注目が高まっている。重要な二次予防であるがん検診に関しても、海外ではうつや不安などの心理的苦痛を抱える者はがん検診受診率が低いことが報告されており、公衆衛生上の課題として認識されている。それに対し、わが国では心理的苦痛とがん検診受診との関連についての報告がない。そのため、統計法第36条に基づき、厚生労働省から平成22年国民生活基礎調査の匿名データ（N=93,730）の提供を受けて、K6によって評価した重度の心理的苦痛と過去1年間の大腸・胃・肺がん検診受診、過去2年間の乳・子宮頸がん検診受診との関連を横断研究デザインにて調査した。その結果、重度の心理的苦痛を抱える者はそうでない者と比較して、過去1年間に大腸・胃・肺がん検診を受診したものが有意に少なかった。また、教育歴、婚姻状況、就労状況によって心理的苦痛とがん検診受診との関連に違いがあるかを解析したところ、教育歴が有意な修飾効果を有し、教育年数が相対的に短い場合に、重度の心理的苦痛ががん検診未受診と関連した。